

佐藤 俊和 (サトウ トシカズ)

ジョルダン株式会社社長



乗換案内事業が安定した成長を持続

◆「乗換案内」の業界状況

執行役員 岩田一輝

当社の「乗換案内」と競合するサービスとしては、携帯電話の分野では、駅前探検倶楽部の「駅探」やナビタイムジャパンの「EZナビウォーク」がある。「EZナビウォーク」は、ルート検索や地図がメインになっているが、地図と路線の検索が融合しつつあるので、競合する部分が多くなっている。また、ヴァル研究所の「駅すばあと」を使った「Yahoo!路線情報」や905iに搭載予定といわれるNTTドコモのルート検索サービスなどの事業者サービスも競合である。

Web系では「Yahoo!路線情報」が強い。個人・法人向けとしては、当社の「乗換案内」と「駅すばあと」がシェアを二分している。

◆2007年9月期の業績

昨日発表した当社グループの決算は、売上高が28億74百万円、営業利益が6億47百万円、経常利益が6億49百万円、当期純利益が3億45百万円となり、いずれも前期比で10%超の伸びとなった。全体的な利益率はほとんど変化していないが、売上原価が減少傾向にあり、販管費が少し増えている。

製品・サービス別の売上構成としては、携帯電話向けの有料サービス「乗換案内NEXT」が前期比で約2億円伸びており、これが全体を引っ張っている。法人向けや旅行分野でも売上が伸びた。

主な変動要因としては、携帯電話の有料サービス「乗換案内NEXT」の会員数が増加し、それに伴って売上高が伸びたことである。会員数は今年の9月末で約50万人となっている。

法人向けでは、既存製品が順調に推移している上、当期中に「乗換案内道路ナビ」と「乗換案内.NET XML Edition」という新サービスの販売を開始し、これらが少しずつ業績に寄与し始めている。

旅行分野ではインターネットでの販売が増加している。また、当期に旅行分野の会計処理を変更しており、昨年のベースでいけばさらに2億円ほど売上が多い計算になる。ただし、利益には影響はない。当期の旅行分野は、この減収要因をカバーした上で、増収の結果を出すことができた点を強調しておきたい。

その他として、ゼストプロ(株)と(有)プロセスの2社は2006年9月期中間から連結しているため、2007年9月期では通期で損益が連結され、これによって売上高が伸びた。

◆2008年9月期の見通し

現在進行中の2008年9月期は、売上高が33億50百万円、営業利益と経常利益が7億20百万円、当期純利益が4億円を計画しており、今期においても前年同期比で10%超の成長ができるだろう。製品・サービス別売上高としては、携帯電話、法人向け、旅行、マルチメディア事業で伸びが大きくなると予想している。

携帯電話の有料サービス「乗換案内NEXT」は、1年後の2008年9月末の目標会員数を55万人に設定している。これが達成できれば12億63百万円の売上になると予想している。広告の売上見込みは1億79百万円である。

個人向け(PC版)は、最近の減少傾向を考慮して2億64百万円という保守的な売上見込みになっている。法人向けは、新製品やサービスの投入を開始したばかりで、現在少しずつ積み上がっている状況なので、2008年9月期には本格的に売上に寄与するものと予想している。連携製品の売上も増加すると思われるので、3億54百万円の売上見込みをしている。

旅行分野は、引き続きインターネットでの取り扱いの増加を見込んで8億4百万円を計画している。

マルチメディア事業は、家庭用ゲームソフトの開発・販売を開始する。ビジュアルミュージックDVDの販売も開始する。これらの新しい事業が寄与することを予想し、2億71百万円を見込んでいる。

その他の売上見込みは1億93百万円である。

◆「乗換案内」から新たな動きを仕掛ける

社長 佐藤俊和

安定した収益基盤である「乗換案内」を軸にしながら多方面の展開を始める計画を立てていたが、いよいよそれが本格的に動き出す時期にきている。

はじめにUSBメモリであるが、当社ではこれを「xxコン」という名前で販売したいと考えている。商標関係が微妙なところにあるため、具体的な名前は資料には記載していない。

私自身、1年以上も前から、自分のPC環境はこれ一つだけである。ワードやエクセル等はパソコン側に入れてあるが、メーカーからデータファイルは全部このUSBメモリに入っている。これは、一度パスワードを設定すると、メモリを抜いた段階で自動的にハードウェア的なロックがかかるので、紛失しても安心である。ここで特徴的なのは、パソコン側にバックアップがあることである。通常のコセプトとは正反対に、このUSBメモリのバックアップをパソコン側に持たせている。したがって、このUSBメモリをなくしても復元可能である。アプリケーションを入れておくこともできるので、自分のPC環境を全部このUSBメモリに移して持ち運べる。

PCやWebの今後についてはさまざまな予想があるが、すべてがGoogle Officeのようになるとは思えない。以前Yahoo!でメールが全部消えたこともあり、Google Officeで同じことが起きたら大変なことになる。私の場合、自分のデータは自分で持ち歩きたいし、おそらく将来的にコンピュータのニーズはこの方向へ代わっていくだろう。そして、当社として、そのようなニーズを牽引していきたいと考えている。

USBメモリは、まもなく8ギガバイトのものが発売される。通常の使い方をしていくかぎり、8ギガバイトもあれば個人のPC環境を入れるのには十分である。ただし、現時点ではWindows Vistaで動かない可能性のあるモジュールが存在するので、これらを整理した上で、2008年春に「xxコン」の名前で発売していく予定である。ただし、USBメモリと受け取られると、この商品の趣旨と離れてしまうので、どういう売り方をすればよいかを工夫する必要があるだろう。

もう一つは、コンピュータグラフィックスの世界で非常にユニークなことを行っている米国のANIMUSICという会社との提携である。この会社は、仮想現実のCGと音楽とで同期をとったDVD作品を作っている。DVD市場が非常に厳しいことはよく知っているが、これを大きな流れにしていけるかどうかは、当社がどう変わることができるかにかかっていると思う。

最初に「乗換案内」を出したとき、私は便利な道具を提供したかった。便利な道具を提供することで世の中のライフスタイルを変えられないかという思いがあった。ご存じのとおり、インターネットや携帯電話の進化の中で、「乗換案内」は一定規模の事業にまで発展することができた。同様に、当社がゲームを追求しているのも、世の中に新しい感動を与えたいからである。また、実際にアニミュージックの作品を見せると「CGの技術はここまで来たのか」と皆さんがびっくりされる。「乗換案内」からDVD・ゲームへというジョルダンの事業の流れは、私の中では自然なものであるが、それを世の中の人にどうやって訴えていくかが課題となるであろう。

このDVDは来年3月発売の予定であり、その前の2月には米国からアニミュージックの総監督を呼んできて大々的にプレスリリースを行う予定である。

◆官公庁や法人向けの取り組みを広げる

安定ビジネスとしての「乗換案内」は、地図ソフトの機能強化を携帯電話、Web、PC向けに行っている。先月の半ばには「乗換案内NEXT」の中で、目的地検索をして駅からどのように行けばよいかという地図を示すサービスを既に開始している。要素技術の開示の順番に合わせて、他社が行っていることはすべて自社で行う予定であり、来年の春にはすべてを実現する予定にしている。

携帯電話事業者等がこの市場へ入ってきて競争が激化する中で、当社としては「乗換案内を極めていく」というスタンスでやっていく。例えば、官公庁で「2キロ以上はバスに乗ってもよい」といった旅費規程があるが、実際にそれが2キロ以上かどうかを調べる手段が現在はない。そのため、官公庁向けの「乗換案内」に道路と組み合わせた機能を実装し、既に何件か導入が始まっている。さらに現在、当社では猛烈な勢いでバス情報の拡充を行っている。当社としては、コスト倒れになることが最も懸念されるので、自治体と一緒にバスのデータを収集したり、自治体のシステムにバスの機能を搭載したりする作業を始めている。今までは高速バスや都バスだけしか行ってこなかったが、バス機能の拡充は全国的な動きになりつつある。

「乗換案内」のような製品は、このように更新頻度が非常に高いので、法人にとっては自社のサーバーにこれを置くよりASPサービスを利用した方が都合がよい。ただし、セキュリティの問題で官公庁の場合はASPサービスではなく自社サーバーで動かしている。大きな流れとして、新しいソフトウェアは全てASPIに入っていくはずであり、このためASPサービスを導入する一般企業が増え始めている。まだ未知数の部分はあるが、将来が楽しみである。

「ジョルダンライブ！」という携帯電話の投稿型サイトをスタートしたが、これを拡充しながらコンシューマとの連携を図っていく。旅行分野では、よりシームレスに世界のチケットを購入できるようにしたい。これについては、官公庁や法人向けの動きに合わせながらベースとなるシステムを作っていく。

(平成19年11月9日・東京)